

ふじみサラダボール子育て情報



「成長と発達」
令和6年11月20日号



知恵くらべを楽しむ

「知恵」とは、「物事の道理を判断し処理していく心の働き」と辞書にあり、仏語からきた言葉と定義されています。つまり、物事の筋道を立て、計画し、正しく処理していく能力のことを指します。では、知恵がつくのは、いつ頃なのでしょう。子どもは概ね1歳ごろから知恵を授かりはじめ、2歳や3歳になると状況に合わせた言葉を使って対話できるようになります。この頃から脳の発達も著しくなり、現実と虚構の世界が錯綜し始めます。頭の中で現実と想像したことが混ざり、あたかも真実のごとく話したりすることがよく見られる年頃です。

子どもの知恵は、遊びと触れ合うことで、より身についていきます。わがままを言ってダダをこねたり、親の言うことが素直に聞けなくなったりするのも、この年頃からです。自分の思いや考えを親にぶつけてみて、親が何と言うかを試してみたり、手こずらせてみたりと知恵が働きはじめます。親の出方や価値観を学習し始める時期で、このような親の思いとずれがあるコミュニケーションも、知恵がついた証拠なのです。

親も、ぜひ真剣に対話してみてください。子どもの深層にある心と対話することができるかもしれません。子どもと知恵比べしながら、子育てを楽しんでみてはいかがでしょうか。

【秋の自然の中で…】



↑門をくぐると落ち葉の道が…



葉っぱを拾って秘密基地
に運んだり、箱に入れて
お風呂にしたりして楽しめます



袋に入れてどこに運ぶのかな？→

